

まちづくり専門家プロフィール

ふりがな	ふるはし のぶひこ											
氏名	古橋 信彦											
区分	アドバイザー	コンサルタント										
専門分野又は得意とする分野 <ul style="list-style-type: none"> ・避難所運営ゲーム(HUG)のコーディネーター ・クロスロードゲームのコーディネーター ・適切な避難の在り方と避難所運営についての講義 ・東日本大震災の課題についての講義 												
主な実績 <table border="0"> <thead> <tr> <th>(活動時期)</th> <th>(活動実績)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 19 年～平成 21 年</td> <td>仙台社会福祉協議会太白事務所長(防災意識啓発用小冊子 5 冊作成)</td> </tr> <tr> <td>平成 21 年～平成 23 年</td> <td>仙台市社会福祉協議会 囑託 (HUG の実施)</td> </tr> <tr> <td>平成 23 年～平成 24 年</td> <td>仙台市災害時要援護者避難支援プラン(全体計画)検討会議委員</td> </tr> <tr> <td>平成 23 年</td> <td>NPO SONAE 仙台防災学習研究所所長(平成 23 年 6 月設立)</td> </tr> </tbody> </table>			(活動時期)	(活動実績)	平成 19 年～平成 21 年	仙台社会福祉協議会太白事務所長(防災意識啓発用小冊子 5 冊作成)	平成 21 年～平成 23 年	仙台市社会福祉協議会 囑託 (HUG の実施)	平成 23 年～平成 24 年	仙台市災害時要援護者避難支援プラン(全体計画)検討会議委員	平成 23 年	NPO SONAE 仙台防災学習研究所所長(平成 23 年 6 月設立)
(活動時期)	(活動実績)											
平成 19 年～平成 21 年	仙台社会福祉協議会太白事務所長(防災意識啓発用小冊子 5 冊作成)											
平成 21 年～平成 23 年	仙台市社会福祉協議会 囑託 (HUG の実施)											
平成 23 年～平成 24 年	仙台市災害時要援護者避難支援プラン(全体計画)検討会議委員											
平成 23 年	NPO SONAE 仙台防災学習研究所所長(平成 23 年 6 月設立)											
資格等												
まちづくりに関する活動履歴 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校教諭時代から安全教育に関心を寄せ、安全主任を歴任し、教頭、校長時代は地域の防災に関わってきた。 ・仙台市社会福祉協議会に勤務した 4.2 ヶ月は、宮城県沖地震の発生確率が 30 年以内に 99%であることを受け、福祉の究極は防災であるとの考えから、太白区を中心に小冊子「99%に備えるシリーズNo.1～3」を執筆し、地区社協、町内会を中心に啓発のための講演を行ってきた。 ・太白事務所長時代には、太白区連合町内会、太白区社会福祉協議会、太白区民生委員児童委員協議会の三者による「三者委員会」を立ち上げ、事務局長として各組織の連携を図るとともに、「地震が来る前に」の小冊子を作成し、啓発のための講演を実施してきた。 ・静岡県開発の避難所運営ゲーム(HUG)を仙台市社会福祉協議会に導入(平成 20 年)し、地域の各団体を対象に 20 ヶ所以上の会場でコーディネーターとして啓発講演活動を行った。なお、太白区、若林区保健福祉センター職員研修(HUG)も延べ 4 回実施している。 ・平成 23 年から SONAE 仙台防災学習研究所を立ち上げ、防災に関する講演を平成 23 年中で 12 ヶ所、平成 24 年は、9 月現在まで 34 ヶ所で行っている。(札幌、東京、南アルプス市を含む) ・平成 24 年 9 月から東北福祉大学で、「災害と地域調査」というテーマで特別講義を 12 月まで行う予定である。 												

まちづくりについて考えること

平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災以前も以後も、市民の防災意識は高まりを見せている。

大震災以前から仙台市は、平成 20 年 3 月に「地域で備える災害時要援護者支援」の手引き、平成 21 年 3 月には「あなたの家族とまちを守る」を作成し、市民に防災の具体的な対応について啓発を行ってきた。

また、仙台市は、平成 19 年 3 月に仙台市地域防災計画(地震災害対策編)を修正、仙台市地域防災計画(日本海溝型地震対策推進計画編)を策定、仙台市地域防災計画(風水害等災害対策編)を修正するなど、99%の確率で発生すると予測された宮城県沖地震に備えてきた。

これらの啓発用冊子や防災計画は、他都市に比べても先見性を持った優れたものであったが、これらの備えが、地域住民に十分に浸透しないまま、東日本大震災を迎えたことは慙愧である。

仙台市民は未だに「防災は地域住民が主体」との意識が希薄のままである。3.11 以後の避難所運営に象徴されるように、学校職員や自主防災組織(町内会)の努力にもかかわらず、被災者自らが主体的に避難所運営に関わろうとする姿があまり見られなかった。

まちづくりの基本の一つに災害に強いまちづくりが挙げられる。現在市民の強い関心の的はハードの面であるが、防災に関しては、ソフトの面、特に市民が防災に主体的に関わろうとする意識と防災に関する知識の獲得、地域組織間の連携、3.11 の教訓を生かした訓練等が重要であると考ええる。

私は、避難所運営ゲーム(HUG)、クロスロードゲーム、などを通して防災意識啓発を行ってきたが、これらのゲームを市民が体験することにより、「防災は地域住民が主体」との意識啓発と防災知識の普及のために、はなはだ効果的であることを実感してきた。

そして、仙台市が作成した防災啓発用小冊子を、地域で分かりやすく説明できる人材と機会が不足しているとも感じている。また、今年度中に仙台市が発行予定の「避難所運営マニュアル」は、文字数が多く、最後まで読み込もうとするには分量も多い。これでは、市民に浸透しないのではないかと危惧している。よって現在、仙台市のマニュアルに準拠した「地域のための避難プラン」と題するコンパクトな避難所運営マニュアルを作成している。

今後、私は、仙台市民の多くにわかりやすく、納得のいく講演を通して市民の防災意識の啓発に寄与したいと考えている。